

国大ニュース Vol.4

Yokohama National University

2008

2.20

卒業生の皆様へ 理事(国際・卒業生担当)長島 昭

最上川下流の岸辺では、見事な白鳥の大群が極寒のシベリアから飛来して毎年1回の大集会をやっています。村上市(新潟県)の施設では、毎年遡上する巨大な鮭の生き活きとした群れを川底に作った窓から眺められます。秋には愛知県の伊良子半島の突端から鷹の大群が螺旋状に高く上昇した後、糸を引くようにまっすぐ南へ帰ってゆきます。毎年繰り返される胸が熱くなる光景です。

それらの立派に成長した勇姿にイメージを重ね合

わせて、毎年1回ふるさとを訪れてくださる皆様を心から歓迎申し上げます。大学では、同窓会と協力して3年前から卒業生のホームカミングデー(略称HCD)を実施しています。昨年も秋の1日に学部や年齢や地域の違いを超えて、横浜国立大学の1本の旗のもとに楽しい1日を過ごすことができました。今年も第3回HCDが、旧交を温めると同時に、新時代のネットワークの形成につながってゆくことを期待しています。



横断幕で卒業生をお迎え



左：学長，中央：樋口実行委員長，右：長島理事



乾杯の発声をされた卒業生の荻原さんを囲んで

“Let's go, YNU!” 第3回ホームカミングデーに向けて早くも始動!

今年11月15日(土)に開催が決まっている「第3回横浜国大ホームカミングデー(HCD)」の開催に向けて準備が始まり、1月24日(木)に新旧の実行委員長、副委員長、各同窓会会長・事務局長、大学関係者等が集まり第2回HCDの反省を基に、第3回への提言等行いました。今年には友松会(教育人間科学部の同窓会)の相吉靖氏を実行委員長に迎え、「Let's go, YNU! 一盛り上げよう 同窓の力で」をテーマに企

画・立案していくことになっています。HCDは、同窓生、大学教職員、現役学生の三者が協力し合って作り上げていく事業です。これから計画が進むにつれ、色々ご協力をお願いする事があるかと思いますが、よろしくご協力ください。そして、あなたのスケジュール帳の11月15日(土)の欄に、今すぐ「HCD」とご記入ください。

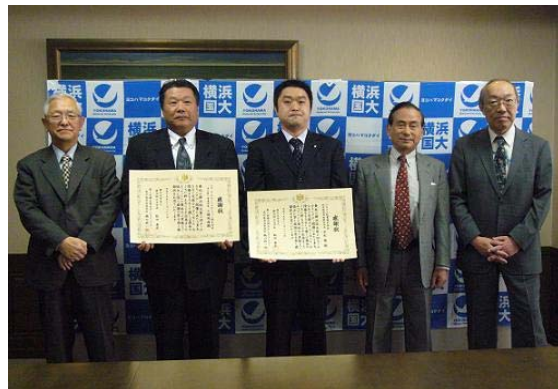
第3回ホームカミングデー開催日決定!!

2008年11月15日(土)

場所：横浜国立大学(常盤台キャンパス)

第2回ホームカミングデー 感謝状贈呈式

第2回横浜国大ホームカミングデー（HCD）開催にあたり飲料を無料で提供して下さる等、多大な貢献があったとして、コカ・コーラセントラルジャパン(株)と、タカナシ乳業(株)の2社に、飯田学長と樋口第2回横浜国大HCD実行委員長が連名で感謝状を贈ることになり、2007年12月26日(水)、学長室において贈呈式が行われました。両社からは「次年度以降もご協力します」と嬉しい言葉を頂きました。



感謝状贈呈後に記念撮影

第2回ホームカミングデー 開催報告



2007年11月10日(土)、朝8時半過ぎ、第一食堂前に横浜駅からのシャトルバス第1便が到着し、第2回ホームカミングデー（HCD）は幕を開けました。当日は、雨模様にもかかわらず、昨年度を上回る950名以上の卒業生、現役学生、教職員、地域の方々の参加がありました。今年「横浜国大いいところ発見デー」をテーマに、飯田学長の基調講演はじめ、各学部でも「いいところ



をアピールする取組が行われました。

体育館で開催された懇親会には、600名以上が参加し、広い体育館に熱気が溢れました。乾杯の音頭をとってくださった萩原忠臣さんは、なんと昭和8年電気化学科卒業、御年96歳でありながら、いまだに萩原電気(株)最高顧問として現役で活躍されています



最後に、来年度幹事の友松会(教育系同窓会)会長金子禎さんから、「来年は11月15日(土)に会いましょう！」と挨拶があり今年のHCDは閉会となりました。

(本学ウェブサイトhttp://www.ynu.ac.jp/topics/topics_630.html より抜粋)

当日の写真がたくさん掲載されていますので是非ご覧下さい。

第5回留学生ホームカミングデー 開催報告

2007年11月10日(土)、第2回ホームカミングデーと同日に、本学教育文化ホール中集会室で留学生ホームカミングデーを開催しました。留学生を含むOB・OG、在校留学生、日本人学生、関係教職員60人余りの参加を得て有意義なものとなりました。当日のプログラムは2部形式で行われ、第1部では1993年に本学土木工学科博士課程を修了され、現在ベトナム国立ホーチミン市工科大学水理工学科長のウエン・ノック・アン博士をお招きし、基調講演をしていただきました。

第2部では、場所を留学生センターに移し、懇親会が終始和やかな雰囲気で行われました。



参加者で記念撮影

(本学ウェブサイトhttp://www.ynu.ac.jp/topics/topics_631.html より抜粋)

日本の環境を守る！～外来生物の分布拡大を予報～

世の中には、ありそうなのに実現されていないことも多く、たとえば道路の渋滞予報なども、旅行計画を立てる場面で利用できれば時間を有効につかうプランを立てることができるが、現在利用できるのはリアルタイムの情報ばかりで計画には使えません。外来生物の分布拡大予報も、ありそうでいて実現していなかったものであり、誰かが実現してゆかなければなりません。

外来生物は、人間が持ち運んだ生物が野生化して分布を広げ、本来の自然を変えていってしまうものです。化学物質などはいずれ分解・沈殿・吸着されてしましますが、いったん野生化した外来生物は自己増殖して増えてゆきます。

日本の自然を激しく変えてしまった外来生物にはマツノザイセンチュウ（松枯れを起こす線虫）があります。1950年代以前の日本の里山にはアカマツの林が多かったが、北米原産と思われるマツノザイセンチュウによる松枯れにより、経済環境の変化でマツ林の管理が行われなくなったこともあって、暖地のマツ林が激減し、その影響でマツタケも高価なものになってしまいました。

いま神奈川県周辺ではタイワンリス（東南アジア原産の樹上で生活する哺乳類のリス）が分布をひろげつつあります。



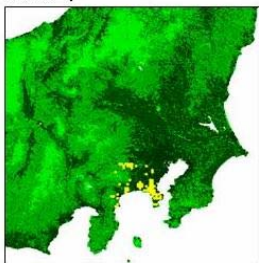
野生化したタイワンリス
撮影：佐藤視帆（2007年修士卒業）

冬にケヤキなどの木の樹皮を剥いしてしまうので、横浜－横須賀道路で三浦半島の森林を早春に走るとタイワンリスによる枯れ枝をよく見かけます。2007年現在では横浜国大の常盤台キャンパスまでは達していませんが、保土谷公園あたりまでは来ているらしいです。アライグマは全国的には分布拡大中だが、神奈川県下はすでにほぼ分布域に入っています。しかしこのような生物が今どこまで分布を広げているのか、自分の町にいつ頃来るのか、などはわからないことが多いです。

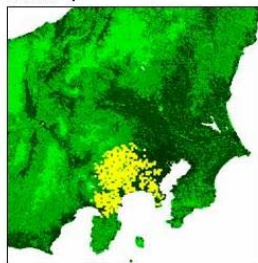
そこで、主な外来生物の分布を調べて分布拡大を確率論的に予測し、広く市民に知らせてゆく分布拡大予報を、さまざまな研究機関や NGO と協力して行う予定です。森林と町が入り組み地理的に複雑な地域の中での生物の確率的な分布拡大のモデル化の研究は、GIS（地理情報システム）を普通に利用できるようになった2000年代に大きく進みました。予報ができるようになれば、将来の被害予測をもとに事前に対策を立てることもできます。

1990年代以降の経済のグローバル化と平行して日本の外来生物の種類数は増えています。またタイワンリスやアライグマをはじめ現在も分布が広がつつある生物も多く、たぶんあと100年もすれば、日本の多くの森では不思議な声の鳥がさえずり、ヤシの木が茂り、犬のような大きさの見慣れない鹿がたくさん走り回っているでしょう。今回の分布拡大予報などによって、本来の自然を少しでも残して行きたいと思います。

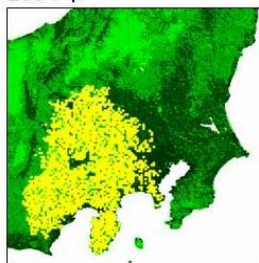
2004年



2019年



2064年



アライグマの神奈川県からの分布拡大予測。ただし県外からの分布拡大もある。



日本生態学会でポスター賞受賞

化石から地球環境を解析！「間嶋隆一研究室」

私の研究室は、
大学院生 11 名
(環境情報学府)
学部生 9 名(教育
人間科学部)の計
20 人の学生と研
究活動を進めて
おります(写真



写真1. 研究室集合写真

1)。私の専門は古生物学と言いまして、簡単に言っ
てしまえば化石の研究です。私たちの研究の基礎は
野外調査にあります(写真2)。化石を含む地層の調
査は何よりも大切です。1つの生物を理解しようとす
ればその生息環境の理解を抜きにしては生物を理解
した事にはならないように、過去の生物(化石)を



写真2. 野外調査風景

理解するには生息環
境の情報を地層から
読み取らなくてはな
らないのです。研究
をしていて何よりも
楽しく充実している
のはこの野外調査を
している時です。

過去の地球環境の変遷は化石の研究を抜きにして
は全く理解できないと言っても過言ではありません
。過去には極めて急激な地球規模の温暖化イベン
トが数多く知られています。この原因の1つとして
二酸化炭素に比較して数十倍の温室効果があるメタ
ンの大気中への大量放出があるとされています。
メタンの放出は化学合成群集という地下からのメタ
ン放出を記録している化石の記録から証拠づける事
ができます。一方、温暖化は、有孔虫という微化石
の殻に保存された酸素の安定同位体比の変動から追
跡することができます。この2つの証拠を比較する
ことによって、地球規模の温暖化とその原因を追
究しています。ここ十年ほどは文部科学省から科学
研究費を頂きボーリングによって地下から直接地層と
化石の試料を採取して解析作業を進めています(写
真3)。その結果、地球の温暖化サイクルと海底から



写真3. ボーリング調査

のメタン放出のサイ
クルが一致している
事が分かってしま
いました。現在この
解析に研究室一丸
となって取り組ん
でいます。

宇宙構造の謎に迫る?!「コンプレックスプラズマ研究室」

コンプレ
ックスプラズ
マ研究室では、
プラズマ中に
存在する微粒
子についての
基礎研究を行
っています。



研究室メンバー

ダストと呼ばれるミクロンサイズの微粒子がプラ
ズマ中に存在する時、ダストは帯電し、背景にある
プラズマと相互作用して、新しい複合系を形成しま
す。この複合系は、たとえば宇宙塵を含む星間空間
プラズマ、彗星等により放出される微粒子を含む惑
星磁気圏プラズマ、微細加工等の産業界で使われる
高い化学反応性ゆえに発生する微粒子を含むプロセ
スプラズマ、装置の壁付近から化学スパッタリング
により発生する不純物微粒子を含む核融合プラズマ
といったものがあげられます。時間的スケールにお
いても空間的スケールにおいてもかけ離れたダスト
とプラズマという二つの系がお互いにかかわり合う
ことによって新しい集団運動を形づくっていきま
す。微粒子を含むプラズマはダストプラズマと呼ば
れるようになり、2000年に入って複合系としての

性質が明らかになるにつれて、コンプレックスプラ
ズマと呼ばれるようになってきました。実験室での
研究を通して、物質の構造、宇宙の構造についての
謎に迫ろうというわけです。研究室では、プラズマ
を放電により生成し、液体ヘリウムの極低温下にお
いて、プラズマ中に微粒子が作る構造に焦点を当て
て研究を進めています。微粒子を含むプラズマは全
体として電氣的に中性であろうとする性質から、微
粒子はお互いに反発し
あいながらもさまざま
な構造を作っていきます。
シミュレーション
では3次元での殻構
造、2次元での環構
造、1次元での糸構
造が確認されています。



研究室で毎週行っているセミナー

このコンプレックスプラズマ研究について、論文
Complex Plasma : Dusts in Plasma (O. Ishihara,
Journal of Physics D, 10P)は2007年にIOP出版58
雑誌の中で500回以上のアクセス数を記録した3%の
論文のひとつに上げられ、世界中の研究者に参照さ
れています。

2007年度も学生実行委員会の主催で第2回ビジネスコンテスト in YNU を行いました。

今回の企画目的は主に2つあります。

「横浜国立大学OB・OGと現役学生とのネットワークを構築する機会づくり」

「外部の大学生との交流やインターンシップへの参加など、積極的に学外へ出て行くキッカづくり」

この2点とも今の横浜国立大学には少し欠けているものであると感じております。今大会に参加し学生の方々にはこれらを意識して行動することで、横浜国立大学を変えていって欲しいと個人的には思います。何かを作りだし、企画することはとても大変なことです。多くのことを学べます。私もこのビジネスコンテストで少なからず成長できたのではないかと考えています。これから益々、横浜国立大学のビジネスコンテストが発展していくことを願っております。まず、8月3・4日オープンキャンパスの日に、コンテストにエントリーした学生を対象に、『ビジネスプラン作成のための勉強会』を実行委員会が主体となって行いました。勉強会には、大学生94人、高校生400人程が参加し、マーケティングや財務分析について勉強しました。次に、10月20日

の予選大会で21チームがビジネスプランのプレゼンを行い、決勝大会に進出できる8チームまでに絞られました。そして、11月3日の大学祭の日に決勝大会を行いました。大学祭の日ということもあり、会場にはたくさんの方々においでいただき、参加した学生にとってはとても良い経験になりました。なお、予選および決勝大会では、富丘会（経済・経営系同窓会）の方々を審査員としてお迎えし、実務的な観点から学生たちのプランに厳しくあたたかいコメントをいただきました。決勝大会後の懇親会では、コンテストに参加した学生たちとOBの方々との交流が深められ、とても有意義な機会となりました。2008年度も大学祭に合わせてビジネスコンテストは行われる予定です。是非、先輩の皆さまも後輩たちの雄姿を見に来てください。



ビジネスコンテスト風景

保土ヶ谷ガイドボランティア奮闘中 横浜国立大学職員 OB 伊藤昌明



国大を退職して何か奉仕活動をしようと、保土ヶ谷区内の歴史・自然などをガイドする「ほどがやガイドボランティアの会」の一員として「よこはま市民活動エールカード」を取得し、活動しています。

国大もガイドコースの一つで、「名教自然碑は、横浜国立大学工学部の前身、横浜高等工業学校の初代校長である鈴木達治先生の功績を讃えて建てられた…常盤台の遺跡は…とどこかに書かれていること以外に自分の言葉で伝えるものがあるのではないかと自問自答しつつ、どうやったら、参加者に満足し

楽しく過ごしてもらえるのか、保土ヶ谷の歴史・自然を少しでも多くの人に紹介しようと、伝える技術だけでなく日頃からの自分なりの再発見を心掛けて、地元への奉仕活動ながら、日々ガイドの研鑽を積み重ねています。

情報基盤センターからのお知らせ ～ 総合情報処理センターを「情報基盤センター」に改組 ～

総合情報処理センターは、1993（平成5）年に情報処理センターから改組され、学内共同利用施設として、教職員・大学院生などの学術研究と学部生の情報処理関連授業を支援するための「研究・教育用計算機システム」及び各部局間・学外へのインターネット接続のための「ネットワーク環境」を提供してきましたが、2007（平成19）年4月から新たに「情報基盤センター」として改組されました。

改組の目的は、先端情報技術の調査・研究・開発とそれらの学内情報・通信環境への適用、学内情報・通信環境の安全確保及び全学的に共通な情報関連教育の実施等を可能とする全学の情報関連サービス機

関として活動することにより、さらにユーザー満足度を向上させることにあります。新しいセンターでは、情報ネットワーク部門と教育支援システム部門の2つの常設部門といくつかの機動的なプロジェクト部門を設けました。それぞれの部門の運営には、センター専任の教員、技術専門職員の他、学内からの兼務教員を当てております。更にユーザーの意見を反映するためにセンターの教育資源を利用する教員によるユーザー会も置きました。

情報基盤センターの詳細等については、センターのウェブページ（<http://www.ipc.ynu.ac.jp>）をご覧ください。

図書館からのお知らせ

北米からの文献提供依頼件数全国第1位に

日米 ILL (図書館間の資料相互利用) において、今年度北米の大学から文献提供を依頼された件数が全国第1位にランクされました。詳しくは、http://www.ynu.ac.jp/topics/topics_637.html

県内公共図書館への蔵書貸出100冊を突破しました！

KL-NET (神奈川県内図書館の ILL システム) を利用した地域住民の方への蔵書貸出冊数が、今年度100冊を突破しました。詳しくは、http://www.ynu.ac.jp/topics/topics_638.html

横浜国立大学学術情報リポジトリ

横浜国立大学学術情報リポジトリは、大学で生産された学術雑誌論文、博士論文、研究紀要論文等を収集し、インターネットで公開しています。現在の登録件数はおよそ2,400件です。研究成果の公開に、是非ご利用ください。

詳しくは、<http://www.lib.ynu.ac.jp/repository/expla.html>

図書館情報課図書館企画係 TEL: 045-339-3204



広報・渉外室からのお知らせ ～横浜国大オリジナルグッズ好評発売中～

2007年11月に発売を開始し、好評を得ている横浜国大ペペロンチーノ風ラーメン「カラッチ〜ノ」



に引き続き、若手職員中心のブランド製品等開発プロジェクトが開発した横浜国大オリジナルキャベツワインも好評発売中です。本学関係者にはお馴染みのキャ

ベツ畑(三ツ沢上町の駅から本学に向かう途中にある)で地元農家の藤巻さんが栽培したキャベツを用いています。名前は渡辺理事(副学長)が命名し、

『MON PETIT CHOU (モン・プティ・シュ)』(フランス語で「可愛いお前」の意)です。同窓会の集まり等で是非ご利用下さい。また、横浜国立大学生協では「カラッチ〜ノ」以外にも本学ロゴマーク

入りのグッズ販売を行っています。今後も新たな商品を開発し販売する予定です。

横浜国大オリジナルグッズウェブサイト

<http://www.jmk.ynu.ac.jp/gakugai/ynu-pr/goods.html>



横浜国大カードのお知らせ ーカード利用で母校の支援を！ー

2008年4月から新たに発行される横浜国立大学が推奨する「横浜国大カード」をショッピングなどの際にご利用いただくと、それに応じた手数料が大学に還元され、教育研究環境の整備や学生のために使用することができます。また、ガス・水道・電気・電話・インターネットなどの公共料金を「横浜国大カード」払いにするだけで、日常的な母校の支援に繋がるとともに、会員にとっても、カード会社固有のポイントが自然に貯まっていきます。

☆☆横浜国大カードのメリット☆☆

①「横浜国大カード」のみに与えられた独自の優待割引が、カード使用または提示により、約150店の提携店で受けることができます。提携店及び特典の詳細は、下記のWebでご確認ください。

<http://www.jmk.ynu.ac.jp/gakugai/somu/jinji/ynufukushi/card-shop.html>

この提携店は、卒業生、学生、教職員が利用できる“横浜に強いカード”を目指して、国大職員が足で稼いだものです。皆様が普段利用している店をご紹介ください。

② 学長名の祝電サービス(婚礼時) カード会員及びカード会員のお子様の婚礼時に、学長から祝電をお届けします。 お問い合わせ先 横浜国立大学総務部総務課 TEL: 045-339-3012



ゴールドカード
10,500円(年会費)



一般カード
1,575円(年会費)